

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(17) 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本 (山北町山北)

標本番号 KPM-NP 46

標本名 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.54 m, 高さ 1.3 m

重量 展示中のため不明

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で常設展示
(神奈川展示室)

採集地 神奈川県足柄上郡山北町山北 (堂山)

緯度・経度 N35°21'57", E139°05'31"

標高 120 m

露頭の種別と現状 不明

露頭面の向き、傾斜 不明

堆積物の種別 降下テフラ (陸成層)

年代 1707 年 (富士宝永テフラ)

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 今永 勇

採集日 不明

関連文献等 宮地直道 (1984) 富士火山 1707 年火砕物の降下に及ぼした風の影響. 火山 (第 2 集), 29:17-30.

解説 標本は生命の星・地球博物館 3F 神奈川展示室で展示されている。標本採取場所の山北町堂山は、富士火山宝永火口の東約 32 km の足柄山地にある。富士宝永 (F-Ho) テフラは斜面に堆積し、テフラ層の下位は火山灰土だが、上位は耕作土が厚く覆い、その中には F-Ho 起源のスコリア、軽石が散在する。宮地 (1984) は F-Ho を Ho I ~ IV に分けているが、標本中には Ho I ~ IV の各ユニットが保存されているとみられる。ただし、最上部は、耕作の影響か、不規則に浸食されている。Ho II ~ IV の境界も平滑ではなかった。

記録者 笠間友博

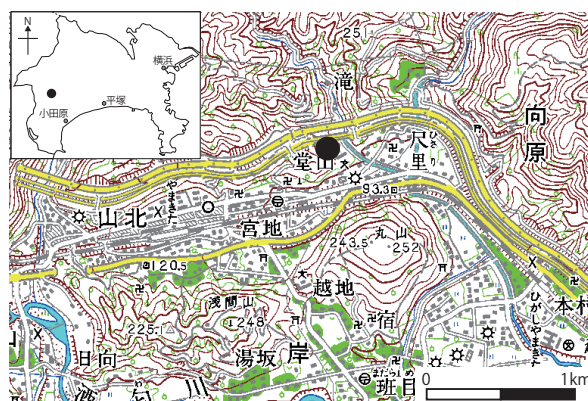


図 1a-17-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 1a-17-2. 展示前の剥ぎ取り標本の写真 (左). 右は KPM-NP 47.

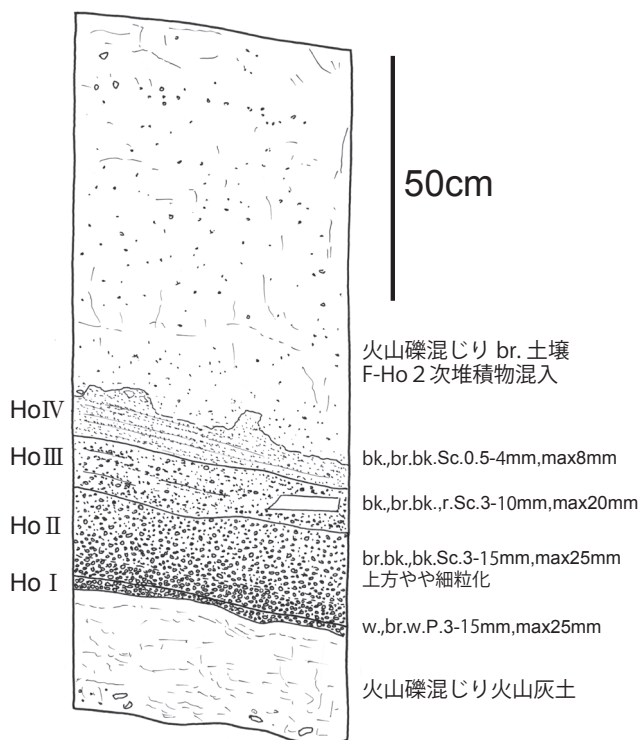


図 1a-17-3. 剥ぎ取り標本のスケッチ (左, 笠間原図) と写真 (右, 神奈川展示室) (中村 淳氏撮影)。